

経済倶楽部便り

◆東京◆ 恒例の銷夏パーティを7月11日に開催しました。会員、講師とも多数のご参加を賜りありがとうございました。谷口正次氏、後藤謙次氏のミニスピーチは5分の持ち時間では足りず、聞いた方々から本講演を催促される濃厚な内容でした。今夏もお願いした渡辺克也氏のオーボエはいつも増して力が入り、今から来年の再演が待ち遠しい心に残る演奏でした。

さて8月の講演会は、長めの夏休みをいただき、月末31日の星浩氏（朝日新聞オピニオン編集長・論説主幹代理）から再開です。続く9月第1回は7日に石弘光氏（一橋大学名誉教授）をお招きします。

新会員を紹介します。安間孝信・葵コーポレーション代表取締役、大荒利之・栃木交通バス会長、望月兼雄・宗教法人善性寺代表役員。

（塚田 紀史）

◆中部◆ 今や講演会ブームだと言われます。背景には、講演会の利便性があります。つまり、1冊程度の本のエッセンスが1時間超でわかるということです。ただ、講演会には主催者として感じる難しさもあります。それは聞きたいテーマと最適な講演者のタイミングを合わせることや講演自体の成功・不成功です。最初の点は努力と偶然に左右されますが、二つ目の点は講演の参加者数や講演後の参加者の評価といった基準があるように思います。今年前半、中部経済倶楽部では17回の講演を行いました。このうち参加者数が最も多かったのは浜矩子氏の講演でした。講演は「政治的論理から始まったユーロは必ず消滅する」といった内容のものでしたが、講演後のパーティでも、浜氏を質問攻めする参加者が多かったのを見ると、内容も評価されたようです。8月は本来、休会月ですが、今年は特別版として読売巨人軍元球団代表の清武英利氏を予定しています。

（日暮 良一）